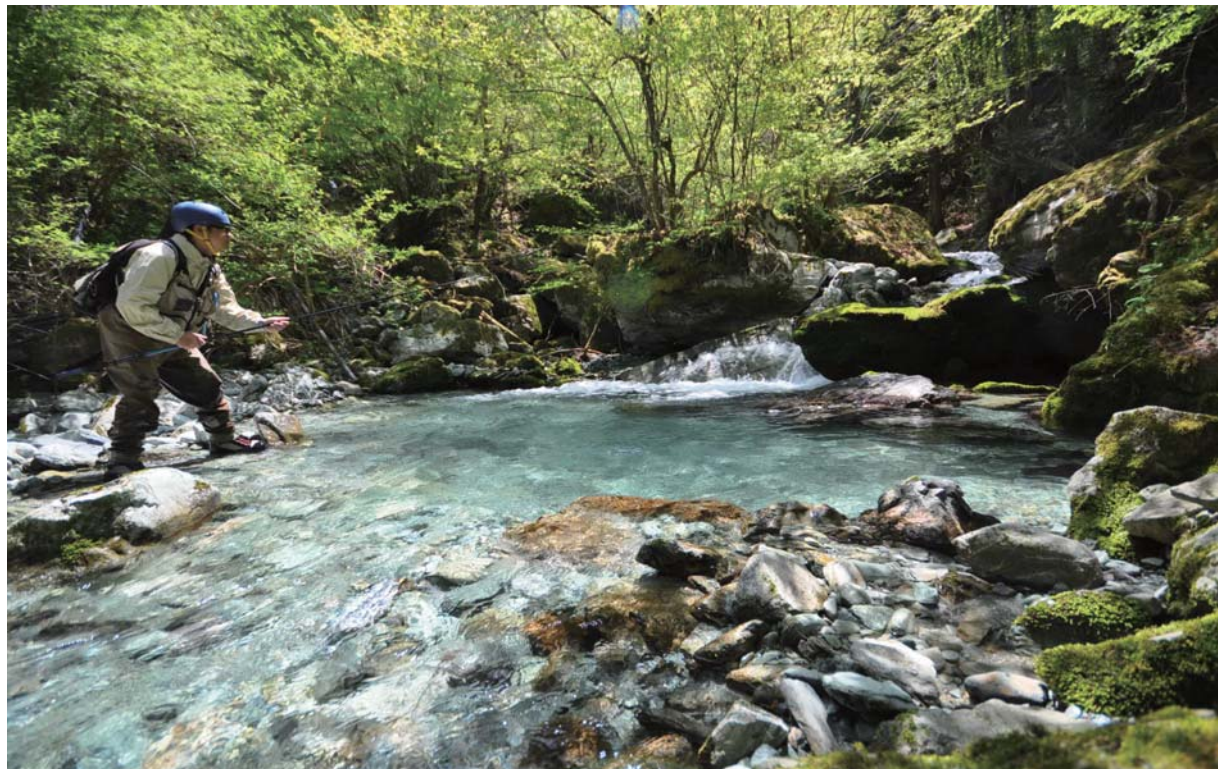


吉野川を釣る！



(吉野川支流祖谷川)

こんにちは。今回初投稿させていただきます釣り好きのYです。趣味の渓流釣りを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私の釣りターゲットはもっぱらアマゴ（徳島県ではアメゴと呼ぶ方が一般的）。鮭科鮭目の魚類で、魚体には美しいパーマーク（楕円状の模様）とルビーを散りばめた様な鮮やかな朱点が特徴的な魚です。



(アマゴ28cm)

国道439号線から林道へとそれ、釣り場近くに車を停めます。ここから釣り場まで、山登り沢登りが始まる。祖谷川本流の国道沿いでも、この地域ならば十分アマゴは釣れるとは思いますが、今日は以前から気になっていた支流源流部が見たくて、標高1,000m付近から釣る計画です。

今回の釣り場は、吉野川支流祖谷川上流域。渓流釣りとしては四国で最もポピュラーな場所の一つです。

祖谷川上流域は徳島県西部の三好市東祖谷に位置し、平家の落人伝説や奥祖谷かずら橋が有名です。祖谷川の源流は西日本で二番目の高さを誇る徳島県最高峰 剣山（1,954.7m）を源とし、剣山、三嶺、天狗塚の山々※からの支流を束ねる風光明媚な場所です。



(標高1,000m付近)

駐車付近の林道はコンクリート舗装されています。道に目を落とすと、大きな足跡を発見。ツキノワグマ？ 絶滅危惧種なので遭遇確率は低いかもしれませんが、四国にも生息しています。熊の中では小型ですが熊は熊。



(コンクリート舗装の林道)



(足跡)

気休めかもしれませんが、ザックに熊除けの鈴を取り付けます。最悪、熊との接近戦に備えて腰に鉈を装備。熊と出会わない事を祈りながら、いざ出発！



(熊除け鈴)



(釣り準備完了)

車を停めた付近は標高約800m。しばらく山登り、そして沢登り。

小さな滝と小さな淵が繰り返される典型的な山岳溪流の風景が広がります。

釣り餌ですが私はもっぱら川虫(水生昆虫)を使用します。理由は現地調達ができ最も経済的だから。(笑)しかし、この川虫捕りが一苦労です。高地では6月頃まで水温5度以下になり、ウェーダー(胴長)を履いていても流水に立ち込むと極寒です。冷え性腰痛持ちには地獄の作業。石の裏にくっついている、カワゲラやカゲロウ達は小さく、老眼泣かせの生き物です。釣り餌となる川虫達を、30分かけて多少ですが調達出来ました。

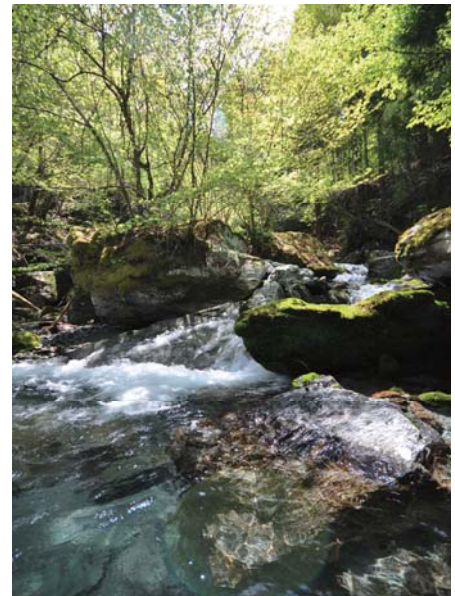


(カワゲラ)

標高約1,000mからの実釣開始です。

覆い被さる木々の枝をよけながら、仕掛けをポイントに送り込むと、第一投釣れる。その後もどんどん釣れますが15cm程度のリリースサイズが続き、大物がなかなか出ません。

しばらくは剣山国定公園の景色を楽しむ事にします。



(標高 1,100m 付近)

周囲の山は杉の植林帯とブナやモミの原生林が混ざる場所。花粉症の私にとってはつらい場所ですが、今日は天気も良く最高に気持ち良い！しかし、天気が良すぎて困る事もある。竿陰が水面に映り込むと、警戒心が強いアマゴは釣れなくなります。



(標高 1,200m付近からの三好市東祖谷)

この渓流には青石が多いです。この青石は西日本を東西に走る中央構造線の南側の地層「三波川帯」に多く分布する変成岩でとても美しく、水中では特にコバルトブルーに輝き、写真映えします。アマゴも保護色となるのか、全体的に青みが強く格好いい魚体です。



(水中撮影成功！)



(アマゴ25cm)

釣りの途中で、天然山葵群生を発見！

山葵は渓流に沿って自生する日本原産の香辛料です。



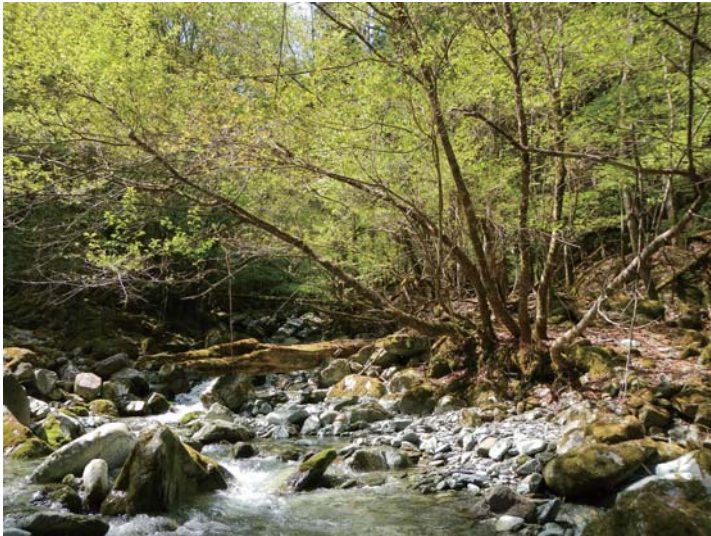
(天然山葵群生)



(山葵の花)

祖谷地方には比較的
多い植物ですが、ここは
剣山国定公園内。動植物
採取禁止エリアなので、
写真撮影のみとしまし
た。

随分と溪流を釣り上がり、かなり空が近くなってきました。沢の水量が極端に少なくなり明確な淵もみあたらない。この付近が、魚が生息できる限界点かな？



(標高 1,200m付近)

今日は4時間の溪流釣りでしたが、実質竿を出しているのは1時間30分程度だったでしょうか。ほとんどの工程を山登りと沢登りに費やしてしまいました。

標高1,000m~1,300mの自然と釣りを楽しむ小さな旅が終わりました。釣果の程は今ひとつでしたが、この川にはリリースサイズのアマゴは多く生息しています。じっくりと攻めれば十分大物も期待できそうです。

今回釣りに行った溪流は、一部V字谷であり途中土砂崩れの場所も含まれる為、溪流釣り初心者には少し厳しい地形でしたが、自然豊かな場所です。

吉野川流域にも、まだまだ素晴らしい自然が残されていると、改めて実感する事ができました。

次は、どの溪流に行こうかな！



(リリースサイズ)



(ユキモチ草)



(鹿の痕跡)



(標高 1,300m付近)